

児童生徒の「主体的な学び」を促す授業実践

1 基本情報

◇各教科等 美術

◇学部・学年 中学部 第3学年2組（2名）

◇単元名 彫刻，立体

◇単元の目標 自然や造形品の美しさなどに関心をもつ。

◇付けたい力 作品を鑑賞しその作品の特徴を捉え自分なりの方法で表現する力

◇本時の目標 作品を見て言葉や動作で表現することで鑑賞の能力を高めることができる。

◇生徒の実態 生徒Aは自閉症と高度難聴（75 dB程度）であり，音声言語による意思疎通は難しい。よく使用するコミュニケーション方法は簡単なジェスチャーと手話，筆談である。生徒Bは脳性麻痺による身体障害があり手足の緊張が強い。「あ」や「は」などの音は出すことができるが，音声言語としての声を出すことは難しい。美術の授業には意欲的に取り組んでおり，これまでに絵画，彫刻，デザイン，工芸等の一通りの表現方法を学んできた。しかし，他者の作品をよく鑑賞しその良さを認め合い作品について語り合うなどの言語活動の充実を図った鑑賞活動は，これまで十分に行ってこなかった。そのため，鑑賞の能力が十分に育っていない。また，2名ともコミュニケーションの点で課題があり，現在は全授業を通して適切なコミュニケーションについて重点的に指導を行っている最中である。

2 期待する児童生徒の姿

作品を鑑賞し，その特徴に気付き主体的に手話か動作で伝える姿。（考え，気付き，表現する姿）

3 指導者が捉えた児童生徒の「主体的な学び」

・電子黒板で作品を提示し鑑賞する活動では，作品中の人物のポーズを主体的に真似してみる様子が見られた。

・鑑賞した作品の中から「好き」「嫌い」をカードで取捨選択することで意思表出することができた。

・鑑賞した作品の特徴を自分なりの解釈で文字と手話で表現することができた。

・ジェスチャーゲームでは，作品の特徴をよく見て同じポーズを取ろうとしたり，作品の中で使われているモチーフを使ってポーズをしたりするなどの主体的な身体表現が見られた。（考え，気付き，表現する姿）